

令和6年度（2024年度）「木育マイスター」育成研修等委託業務

業 務 実 施 報 告 書

も く じ

● 事業概要	2
● 事業スケジュール	3
● プログラムの作成	
プログラム作成	4
研修日程の設定	5
現地情報の収集	9
受講生の募集と選定方法	9
● 木育マイスター育成研修の実施	
【A 日程】	
第1回目	10
第2回目	12
【B 日程】	
第1回目	15
第2回目	18
● OJT の実施	21
● フォローアップ研修の実施	25
● 木育マイスターミーティングの実施	30
● まとめ	31
● 添付資料	
①OJT 自己評価シート	
②アンケート集計	
③木育マイスターミーティング議事録	



●事業概要

当事業は、「木育」の理念を十分に理解し、民間における「木育」活動の企画立案や全体的なコーディネートができ、道内各地域で指導的な役割を果たすことができる人材を育成することを目的に行うものである。

木育マイスター育成研修のカリキュラムは6つに分かれており、①木育の理念、②森づくりの仕事や樹木などの基礎知識、③暮らしと産業の関わり、④人の成長過程における木の存在や癒し効果、⑤木育プログラムにおける伝える技術、⑥木育プログラムの考え方と企画のやり方である。

昨年度同様、木育マイスター育成研修は2つの日程で行った。A日程は胆振地区を会場とし、7月21日・22日（1回目）と10月20日・21日（2回目）に、B日程は上川地区を会場に7月27日・28日（1回目）と10月26日・27日（2回目）に実施した。OJTは、A日程は7月23日～10月19日の期間、B日程は7月29日～10月25日の期間で行った。

当カリキュラムを修了すると、「木育マイスター」として北海道から認定され、木育に関する活動機会には指導者として活躍することが期待されている。令和6年度は第15期生として44名の木育マイスターが誕生した。

今年度は北海道の木育20周年イベントが11月10日に北海道大学学術交流会館で開催され、木育マイスターの交流を目的としたフォローアップ研修のプログラムを当イベントに導入し、67名の木育マイスターが全道各地から参加された。

また、昨年度に引き続き、木育マイスターの情報交換及びネットワーク化促進のため木育マイスターミーティングを5月、8月、12月の3回にわたり開催した。全道各地で精力的に活動している木育マイスターを構成員として話し合い、木育活動における課題の抽出と共有を図り、マイスターの要望の把握など課題解決に向けた話し合いを行った。



■本事業における業務

1. 木育マイスター育成研修

1)受講者の募集

道内の木育の実践者や木育関連団体へ広報を行った。また、ホームページや SNS などでも広く一般からも参加者を募った。

2)研修会の開催

「木育達人入門」をテキストとし、室内講義と実習においてテキスト内容を全て履修できるカリキュラム設定を行った。A 日程、B 日程ともに第 1 回目と第 2 回目の 2 回に分けて研修会を行った。

3)OJT 研修の実施

室内講義や実習で習得した内容を実践するための OJT を実施した。

2. 木育マイスターフォローアップ研修(北海道の木育 20 周年記念イベント)

1)参加者の募集

木育マイスターメーリングリストから開催案内を送信するとともに、既認定者へチラシを郵送した。また、北海道並びに当社ホームページ、SNS 等により周知を行った。

2)研修会の開催

20 周年の振り返りの鼎談や事例発表、交流会を盛り込んだカリキュラム設定を行った。

3. 木育マイスターミーティング

1)構成員の選定

地区支部のメンバーと各分野で精力的に活動されている木育マイスターを中心に、地域や年齢に偏りができないよう幅広く選定をした。

2)ミーティングの開催

集合型のミーティングを 2 回、オンラインミーティングを 1 回開催し、参加者の交流促進を図りつつ、構成員に参加負担の少ない開催方法とした。

●事業スケジュール

■事業スケジュール

講師陣の意見を聞き、前年までの講座の反省点を活かしてよりよい研修にするよう、カリキュラムの詳細を検討した。会場となる場所の下見と関係者との打ち合わせを綿密に行い、その地域の特徴を活用した研修プログラムづくりを行った。

4 月下旬

講師陣と打合せ、研修日程、会場等決定、広報準備

第 1 回木育ミーティング参加者と日程調整及び会場の選定

5 月 10 日

木育マイスター育成研修 受講生募集の広報開始

5 月 23 日

第 1 回木育マイスターミーティング開催

6月7日	木育マスター育成研修 応募締切・選定
6月中旬	【A日程】【B日程】第1回講座関係団体・講師と打合せ、 OJT 受入れ団体との調整
7月21日-22日	木育マスター育成研修 【A日程】第1回目
7月23日～	OJT 開始【A日程】(～10月19日まで)
7月27日-28日	木育マスター育成研修 【B日程】第1回目
7月29日～	OJT 開始【B日程】(～10月25日まで)
7月中旬	木育マスターフォローアップ研修(北海道の木育20周年イベント) 関係団体・登壇者と打合せ
7月下旬	第2回木育ミーティング参加者と日程調整
8月26日	第2回木育マスターミーティング開催
9月30日 者募集開始	木育マスターフォローアップ研修(北海道の木育20周年イベント)参加
9月中旬	【A日程】【B日程】第2回講座関係団体・講師と打合せ
10月20日-21日	木育マスター育成研修 【A日程】第2回目
10月26日-27日	木育マスター育成研修 【B日程】第2回目
10月30日	木育マスターフォローアップ研修(北海道の木育20周年イベント) 応募締切
11月10日	木育マスターフォローアップ研修(北海道の木育20周年イベント)実施
12月11日	第3回木育マスターミーティング開催

●プログラムの作成

■プログラム作成

木育マイスター育成研修については、テキスト「木育達人入門」に基づき、プログラムはテキストの章立てに合わせ、第1章から第6章の内容を2日間×2回の全4日間で学ぶ研修の他に、OJTを一回以上受講することを木育マイスター認定の条件としている。当プログラムは、体験学習法を取り入れ、①まずはやってみる、②なぜそうなのかを考える、③次にどうするかを考えるという学びの循環過程を意識した。過年度研修のアンケート結果などを踏まえ、よりわかりやすく実践的なカリキュラムになるよう、講師や内容の検討を行い、プログラムを作成した。

木育マイスターフォローアップ研修として、北海道の木育20周年記念イベントを開催した。北海道と木育マイスターの有志で構成された「木育NEXT50事務局」及び弊社とで打ち合わせを重ねながらイベントの枠組みを作成した。

木育マイスターミーティングの議案については、第1回は主に北海道の木育20周年記念イベントの開催について、第2回目と第3回目については、本部機能やネットワークの構築についてなど昨年度提案された課題の解決に向けた話し合いができるよう計画をした。

■研修日程の設定

A日程・B日程共に緑の森（樹）と紅葉の森（樹）を体感してもらうために、第1回目の研修を7月中、B日程は10月中に研修を行うこととし、日程を設定した。A日程においては、平日勤務の方も土日勤務の方も参加しやすいよう、日曜・月曜の研修とした。また、B日程においては北海道立北の森づくり専門学院の学生も参加しやすいよう土曜・日曜の研修とした。

【A日程】

◆第1回目 2024/7/21（日）～2024/7/22（月）

【7/21】

時間	章	カリキュラム	講師	内容	時間	会場
10:00～ 11:30	5章	体験学習法の理解	宮本 英樹	体験から概念へと つなげていく学習法	1.5H	イコロの森
11:30～ 12:30		昼食・休憩				
12:30～ 15:30	1章	木育の理念	煙山 泰子	木育の理念	2.5H	
15:30～ 17:45	4章	木と生きる ～人の成長と木の関係～	宮本 英樹	子どもの発達の特徴と過 程、人を癒す木の働き	2.0H	

【7/22】

時間	章	カリキュラム	講師	内容	時間	会場
9:00～ 10:00	2章	木にふれ、木に学ぶ	上田 融	林業体験—育林作業	1.0H	イコロの森
10:30～ 13:00	2章	木にふれ、木に学ぶ	宮本 英樹	北海道の主な樹種 森林の定義 北海道の森林の特徴 木材の構造と性質	2.0H	北大研究 林(苫小 牧)
13:00～ 14:20		昼食・休憩・移動				イコロの森
14:20～ 16:50	3章	木と生きる ～暮らしと産業～	(株)ヨシダ 丹治林業	林業・木材産業の今	2.5H	各工場
17:00～ 18:00	3章	木と生きる ～暮らしと産業～	上田 融	森林ボランティア、 レクリエーションの今	1.0H	イコロの森

◆第2回目 2024/10/20(日)～2024/10/21(月)

【10/20】

時間	章	カリキュラム	講師	内容	時間	会場
9:30～ 12:00	5章	木育はつながりの キーワード ～プログラムの伝え方～	宮本 英樹	伝える技術	2.0H	北大研究 林(苫小 牧)
12:00～ 13:15		昼食・休憩・移動				
13:15～ 14:15	5章	木育はつながりの キーワード ～プログラムの伝え方～	宮本 英樹	伝える技術	1.0H	
14:15～ 15:15	6章	木育はつながりの キーワード ～プログラムの作り方～	宮本 英樹	プログラム作りの基礎	1.0H	イコロの森
15:15～ 16:30	2章	木にふれ、木に学ぶ	煙山 泰子 上田 融	林業体験—育林作業	1.0H	
16:45～ 17:30	2章	木にふれ、木に学ぶ	煙山 泰子 上田 融	林業体験—林産加工	1.0H	

【10/21】

時間	章	カリキュラム	講師	内容	時間	会場
9:00～ 11:30	3章	木と生きる ～暮らしと産業～	西川 栄明	生活の中の木、 木の道具	2.0H	イコロの森
11:30～ 12:30	3章	木と生きる ～暮らしと産業～	宮本 英樹	林業林産業の今	1.0H	
12:30～ 13:30		昼食				
13:30～ 17:30	6章	木育はつながりの キーワード ～プログラムのつくり方～	宮本 英樹	プログラム作りの 基礎、模擬演習	3.5H	

【B日程】

◆第1回目 2024/7/27(土)～2024/7/28(日)

【7/27】

時間	章	カリキュラム	講師	内容	時間	会場
10:00～ 11:30	5章	体験学習法の理解	宮本 英樹	体験から概念へと つなげていく学習法	1.5H	北の 森づくり 専門学院
11:30～ 12:20		昼食・休憩				
12:20～ 15:00	1章	木育の理念	煙山 泰子	木育の理念	2.5H	
15:00～ 17:30	4章	木と生きる ～暮らしと産業～	(株)齊藤 工業所 木と暮らし の工房	林業・木材産業の今	2.5H	各工場

【7/28】

時間	章	カリキュラム	講師	内容	時間	会場
10:00～ 12:00	2章	木にふれ、 木に学ぶ	宮本 英樹	北海道の主な樹種 森林の定義 北海道の森林の特徴 木材の構造と性質	2.0H	キトウシ 森林公園
12:00～ 13:00		昼食・休憩				
13:00～ 15:00	4章	木と生きる ～人の成長と木の関係～	宮本 英樹	子どもの発達の特徴と過 程、人を癒す木の働き	2.0H	
15:10～ 17:20	5章	木育プログラムの伝え方	宮本 英樹	伝える技術	2.0H	

◆第2回目 2024/10/26(土)～2024/10/27(日)

【10/26】

時間	章	カリキュラム	講師	内容	時間	会場
10:00～ 11:00	3章	木と生きる ～暮らしと産業～	上田 融	森林ボランティア、レクリエーションの今	1.0H	沼田町 幌新の森
11:15～ 12:15	2章	木にふれ、 木に学ぶ	上田 融	林業体験—育林作業	1.0H	
12:15～ 13:15		昼食・休憩				
13:15～ 15:30	2章	木にふれ、 木に学ぶ	煙山 泰子 上田 融	林業体験—林産加工	2.0H	
15:45～ 16:45	5章	木育はつながりの キーワード ～プログラムのつくり方～	宮本 英樹	伝える技術	1.0H	
16:45～ 17:45	6章	木育はつながりの キーワード ～プログラムのつくり方～	宮本 英樹	プログラム作りの基礎	1.0H	

【10/27】

時間	章	カリキュラム	講師	内容	時間	会場
9:30～ 12:00	3章	木と生きる ～暮らしと産業～	西川 栄明	生活の中の木、 木の道具	2.0H	沼田町 幌新の森
12:00～ 12:45		昼食				
12:45～ 13:45	3章	木と生きる ～暮らしと産業～	宮本 英樹	林業林産業の今	1.0H	
13:45～ 17:30	6章	木育はつながりの キーワード ～プログラムのつくり方～	宮本 英樹	プログラム作りの 基礎、模擬演習	1.0H	

◆フォローアップ研修 2024/11/10（日）

時間	カリキュラム	担当	内容	時間	会場
9:00～ 10:00	開場・受付				北海道大学 学術交流 会館
10:00～ 12:00	トークイベント	西川 栄明	20年の振り返りとNEXT50に向けて	2.0H	
12:00～ 13:30	昼食				
13:30～ 14:20	事例発表	鶴田恵利 山本賢治 他	・木育から生まれた美味しいもの ・企業、学校、地域と取り組む木育	50分	
14:30～ 16:00	交流会	木育NEXT50 実行委員会		1.5H	

■現地情報の収集

現地情報の収集は弊社のネットワークのほか、木育マイスターに協力してもらい行った。

木育マイスター育成研修のA日程の研修においてはNPO法人いぶり自然学校や北海道大学苫小牧研究林にご協力いただき、また、B日程の研修においては、北海道立北の森づくり専門学院やNPO法人そらち自然学校にご協力をいただき、研修会場や周辺の森の下見、研修内容についての打合せを行った。

木育マイスターフォローアップ研修（北海道の木育20周年記念イベント）の会場においては、北海道大学、木育NEXT50事務局にご協力いただき、イベント会場や近隣駐車場について情報を共有し、プログラム内容についての打合せを行い、決定した。

情報収集の際、現地の自然資源、文化資源、人的資源を把握し、研修会を実施する際の素材の整理と危険要因の有無を確認した。

■受講生の募集と選定方法

受講生の募集方法は、広く一般に公募した。北海道と弊社のHPへの掲載、北海道内の木育関係施設への募集チラシの配布を行った。また、北海道森林海洋環境課のメールマガジン「わくわく木育通信」などで情報提供を行った。

木育マイスター育成研修については、平成29年度から、応募の際に「研修の受講目的及び自身の得意分野」についてのレポートの提出を実施しており、令和6年度も引き続き実施した。定員30名に対して合計107名の応募があったことから、急遽若干名の定員を増やし、抽選により受講生を決定した。

木育マイスターフォローアップ研修（北海道の木育20周年記念イベント）については、午前の部（トークショー及び事例発表）の定員は150名とし、一般の方の参加も可能とした。午後の交流会は木育マイスター限定とし、定員を上回る申込みがあったが、先着順で50名の木育マイスターを参加者とした。

●木育マイスター育成研修の実施

【A 日程】

■第 1 回目 令和 6 年 7 月 21 日-7 月 22 日

◆1 日目 (7/21) 苫小牧市 イコロの森 受講者数：22 名

9:30 開会式

10:00 体験学習の理解

(合同会社 machi cen 宮本英樹)

学習の種類と時間軸についての説明を受けた。事柄の多様性を学ぶ横の時間軸と、事象の関係性を学ぶ縦の時間軸があるが、マイスター研修では関係性をより深く知るため、縦の時間軸で学習を進めていく。

体験を通して概念を理解する、「体験学習」の教育手法を学ぶため、受講生たちが実際に体験学習のアクティビティを体験し、アイスブレイクの大切さ、人にもものを伝えるための手法を学んだ。



11:30 昼食 休憩

12:30 木育の理念 (KEM工房 煙山泰子)

木育の理念を理解することを目的に、木育や木育マイスターの目指すものについて学んだ。

日本の森には様々な樹種があり、それらが材になった時の違いを、五感で感じる方法が紹介された。

木で作られた様々な道具・おもちゃや、「木育の玉手箱」を使い、五感の重要性を体験し、木育のイメージを広げた。また、様々な木育事例やプログラムの事例を紹介し、木育の幅広さを認識した。

木のマグネットづくりを行い、針葉樹と広葉樹の違い、加工のしやすさ、しにくさなどを体感した。



15:30 木と生きる～人の成長と木の関係～

(合同会社 machi cen 宮本英樹)

子どもの成長には、子どもの「個性」と発達度合いに合わせた「課題」、「環境」の3つが大事だが、都市化社会ではその3つの歯車がかみ合っていない。歯車がかみ合う、多様な自然の中で育つことの大切さについての話があった。また、マズローの欲求理論や、エアーズの感覚統合の理論、インクルーシブ保育などの紹介があり、受講生が今後活動していく上で指針となりうるような示唆、気づきがあった。



17:45 終了

◆2日目 (7/22) 苫小牧市 イコロの森他 受講者数：22名

9:00 木とふれあい、木に学ぶ

(合同会社 machi cen 上田 融)

研修2回目に実施する林産加工の講義で使用するためのシラカバをチェーンソーで伐採する実習を行った。

鋸の使い方や樹木への切込みの入れ方、倒木の方向に注意することなどの安全指導が行われ、受講生は実際に伐倒することで、より理解を深めていた。伐採した木が馬搬にて運ばれ、1本の立木を製材し、板になる工程の見学を行った。



10:00 木とふれあい、木に学ぶ

(合同会社 machi cen 宮本 英樹)

北大研究林で樹木を観察する実習。移動中のバス車内では、「樹木図鑑」を使用し、北海道の樹種の特徴についての解説があった。

研究林では、北海道の主要な樹木12種を見つけるフィールドワークを行い、実際に樹皮や葉に触れることで肌触りや匂いなどの違いを体感していた。また、自生する場所、木肌や葉の特性について解説をし、樹種の見分け方について説明をした。



12:30 移動 昼食 休憩

13:45 木と生きる～暮らしと産業～

(株式会社 ヨシダ)

(株)ヨシダの取組や現在の木材市場について説明をいただき、製材工場へ移動した。工場では、原木の選木から皮剥ぎ、製材されるまで全てオートメーション化され、コンピューターで管理されている一連の過程について見学をした。大型機械が終始稼働している中でも、最後の点検は人間の目によって行われているなどの講話があった。



(丹治林業株式会社)

1本の木の全てをチップへと加工し、無駄にすることなく使用しているというお話をいただいた。用途が異なるため、針葉樹と広葉樹では、機械を使い分け、また、廃材になるような端木やバークにおいても細粉しチップとして利用価値を高めているとご説明いただいた。また、最近では薪の需要が増えてきていることなどの説明もあった。



17:00 木と生きる

～森林ボランティア、レクリエーションの今～

(合同会社 machi cen 上田 融)

上田氏が和みの森、イコロの森を活用しながらどのように森林サービス業の活性化やボランティアを増やしていったのかを失敗談を交えながらお話しいただいた。

最初は「参加者」として参加していた地域住民も、活動に共感をもってもらう事で「参画者」として加わってもらえるようになった事など、今後のマイスターが活動を行う上で参考となる話題であった。



■第2回目 令和6年10月20日-10月21日

◆1日目 (10/20) 苫小牧市 イコロの森他 受講者数：24名

9:45 木育はつながりのキーワード ～プログラムの伝え方～

(合同会社 machi cen 宮本英樹)

企画(プログラム)を考える際に、その活動の趣旨を伝えるために、流れや伝え方について実際に体験しながら学んだ。

チームに分かれて競争形式のアクティビティを実施した。枝集めや葉っぱ探し、落ち葉などでアートを製作するなど五感を使って体全身で森や木を感じ取った。

様々な気づきが得られるアクティビティをプログラムの流れを意識した順番で行なっていることなどの紐解きを最後に行なった。



12:00 移動 昼食 休憩

13:00 木育プログラムの伝え方

(合同会社 machi cen 宮本英樹)

受講生一人一人のOJTの体験を全体で共有し、共通する重要なキーワードに着目したことで、個人の体験を踏まえた学びの促進ができ、より効果的な伝え方や指導法を学んだ。

また、受講生に質問を繰り返し、それに応じて質問のレベルを上げ下げして、最終的な目標にたどり着く、「質問力」の重要性を学んだ。



14:15 木育プログラムの伝え方

(合同会社 machi cen 宮本英樹)

トランプやフラフープなどの道具を用いてノンバーバルコミュニケーションの難しさを体感するゲームを行った。プログラムの中で共通の課題を成功させるには、全体に指示を出すのではなく、個々に言葉をかけることが大切であることなどを学んでいた。それらのゲームを通じて、参加者同士のコミュニケーションが深まり、その結果、参加者それぞれの個性を引き出すきっかけ作りになることを学んだ。



15:30 木とふれあい、木に学ぶ

(KEM 工房 煙山 泰子、合同会社 machi cen 上田 融)

研修第1回目で伐倒して製材したシラカバを用いて
Cuttingボードの制作を行った。はじめに制作の
手順と道具の説明をし、必要な工程を講師が見本を見
せたのち、実習に移った。

製材したシラカバの板を、受講生の好みに合わせてカッ
トし、削り馬を使って形を整え、穴をあけ、紙やすりで磨
き、最後にアマニ油を塗り、完成させる工程であった。

受講生各自が形やデザインに凝った個性豊かな作品が
出来上がり、達成感と満足感に溢れた表情が印象的であ
った。



◆2日目(10/21) 苫小牧市 イコロの森 受講者数：24名

9:00 木と生きる～暮らしと産業～

(ノンフィクションライター 西川栄明)

木育マイスターとはどのような存在かについて説明があ
り、マイスターとしての自覚を持つことや企画力の重要
性について再認識した。

次に木育プログラムの企画立案のヒントとして色々な
事例の紹介があった。その後、木材製品の歴史や特徴につ
いて理解することを目的に、木の道具、木の文化や習慣な
どの歴史的背景についてスライドを見ながら講義を受け
た。

受講者は、昔から樹種の特徴による適材適所を考えな
がら人と木が共存してきた経緯を学んだ。



11:15 木と生きる～林産業の今～

(合同会社 machi cen 宮本英樹)

森で余暇を楽しむためのコンテンツとしてのテントサ
ウナや森の執事(ネイチャーバトラー)の存在についてな
どの説明があった。また、「森の暮らし」、「農園の暮らし」、
「牧場の暮らし」を展開している大沼流山牧場での活動
内容の説明もあり、木育と暮らし・産業の関連性について
学習した。

受講生は、森林の活用方法として「空間利用」や「里山
的利用」など、時勢に合わせた発想と着眼点が必要である
ことを学んでいた。



12:20 昼食 休憩

13:15 木育はつながりのキーワード～プログラムの作り方～

(合同会社 machi cen 宮本英樹)

木育プログラム、企画を組み立てる際に重要なコンセプト(主旨、ねらい)づくりについての講義であった。

自分の思いを形にして伝えるためにはマーケット分析が大切なことや、企画・実施・評価を繰り返してフィードバックしていくことで、よりよいプログラムができていくことを受講生は学んでいた。

また、プログラムを実施する際は、導入から本体、まとめの流れについて、人の興味を引き、飽きさせないことが重要であると説明があった。



さらに、今までの講義で学んだ「体験活動」やプログラム作成に大切な「思い」「コンセプト」などの企画作りのアウトラインを活用して、受講生自身がこれから取り組みたい企画を提案し、そのテーマについてグループワークにより5つのプログラムの企画・発表を行った。



最後に各自の「木育宣言」を発表し、全4日間の研修のまとめとした。

18:00 終了

【B日程】

■第1回目 令和6年7月27日-7月28日

◆1日目(7/27) 旭川市 北海道立北の森づくり専門学院他 受講者21名

9:30 開会式

10:00 体験学習の理解

(合同会社 machi cen 宮本英樹)

体験を通して概念を理解する「体験学習」の手法を学ぶため、受講生たちが実際に体験学習のアクティビティを体験し、人にもものを伝えるための手法を学んだ。

アイスブレイクを行うことにより、①参加者の不安の解消②規範づくり③コミュニケーションの活発化など、アイスブレイクの目的や重要性について学習した。



11:30 昼食 休憩

12:30 木育の理念

(KEM工房 煙山泰子)

受講生たちは木育の理念を理解することを目的に、木育や木育マイスターの目指すものについて学んだ。

日本の森には様々な樹種があり、それらが材になった時の違いを、五感で感じる方法が紹介された。

木で作られた様々な道具・おもちゃや、「木育の玉手箱」を使い、五感の重要性を体験し、木育のイメージを広げた。また、様々な木育事例やプログラムの実例が紹介され、受講生たちは木育の幅広さを認識した。

最後に木のマグネットづくりを行い、針葉樹と広葉樹の違い、加工のしやすさ、しにくさなどを体感した。

